

2018-6-1
No.1023 250円

思想運動

活動家集団 思想運動

発行・小川町企画 〒113-0033 東京都文京区
本郷3の29の10 飯島ビル1階 ☎03-3818-
6671 FAX03-3818-3199 (郵便振替)00190-0-758235
小川町企画・関西連絡先 ☎080-4700-6461
HP <http://www.shiso-undo.jp/>
購読料：年間6,000円 半年3,000円(送料共)



「高プロ」制度の導入を阻止しよう！日本労働弁護団主催の5・22日比谷音集会后、国会前でシュプレヒコールをする参加者たち(撮影＝田沼久男 関連記事 7面)

「働き方改革」法案の衆院採決強行糾弾！

労働者の「闘い方改革」が必要だ

五月三十一日午後、自民・公明の与党は、維新の会等を従えて、衆議院本会議で働き方改革関連法案を強行可決した。この暴挙を、われわれは怒りをもって糾弾する。

同時に、われわれは、運動主体の弱さを直視し、その克服の途を探らなければならない。

本に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

同法案は、過労死ラインを上回る月一〇〇時間という水準での時間外労働の上限規制、高度プロフェッショナル制度(以下「高プロ」)の導入、「同一労働同一賃金」を併称した格差賃金の法的な容認、雇用対策法の改善等をその内容としている。厚労省の調査データの不備が明るみに出て企画業務型裁量労働制の対象拡大は法案から削除されたが、他の問題は解決しておらず、審議も深まっていない。

学生や公共部門の労働者も支援に立ちあがっている。だが、彼らの違いにため息をつくだけでは済まされない。本紙五月十五日号の沖江和博論文が報告するとおり、フランス国鉄労働者の長期ストライキに対して、マクロン政権とブルジョワマスコミは手を携えてスト反対のキャンペーンを張り、世論の分断を図っている。マクロンらは「ストの文化をなくす」と公言しているという。国鉄労組を狙い打ちにすることで労働運動全体を押し込めようとしているのである。

民族性といったことではない。一九四五年の軍国主義日本の敗戦以降の現代史、すなわち労働運動の高揚と敗北、レッドパージ、民間で先行した労資協調・労資癒着の潮流による労働運動の制約、七〇年代後半以降の新自由主義の跋扈、総評・社会党プロックの解体と連合の発足、社会主義世界体制の崩壊、国境を越える資本のグローバルな競争、といった歴史と運動の推移のなかで、職場における労働組合の規制力が破壊されてきた。それと並行して、労働者として資本に対峙し抵抗する思想が奪われ、あるいは眠りこまされてきたのである。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

高プロ導入は、とりわけ高プロの導入は、旧日経連時代から独占が狙ってきたホワイトカラーエグゼンプション、すなわちホワイトカラーの大部分を労働時間規制の適用除外にしようという野望を、部分ではあれ実現する改悪だ。高収入の一部専門職という「蟻の一穴」から労働基準法の根幹である法定労働時間制を破壊するものだ。企業は労働時間を把握する義務を免れ、休憩時間も深夜労働の規制もない「二四時間働かせ放題」が可能となる。日本労働弁護団や過労死遺族が訴えてきたとおり、過労死促進の「残業代ゼロ」法案だ。

労働者に殺されないために階級的に闘いつつきた歴史的な成果である。敵階級はまさに、そこに焦点を当てて攻撃を仕掛けていたのである。

職場で労働組合規制を再建し、階級意識を奪い返すことは、一朝一夕にはできないとしても、志をともにする活動家が先頭に立つて、それぞれの組織と運動を強化していくことから始める以外にない。資本の側の価値観から自らを峻別する「THEM AND US」の労働者思想を確立し、ストライキを打てる運動と組織を仲間とともに作り上げていくほかはないのだ。

三吉良 寛・自治体労働者